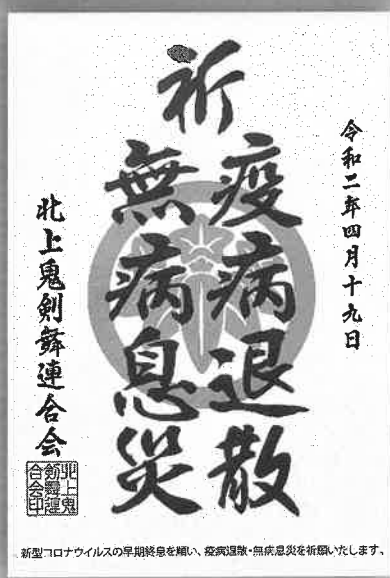


北上市立
鬼の館 だより

2020(R2).10
第53号



へんぱい 反閤によって悪魔を払い、念仏によって衆生済度を願う。
 遠い昔から、鬼たちは大地を踏みしめ、踊り伝えてきました。
 しかし2020年、今年は違いました。新型コロナウイルス感染拡大により、様々な活動が制限され、鬼の館の恒例、芸能公演も3月・4月・5月は中止せざるをえませんでした。鬼剣舞を普通に踊ったり見たりできる日常が、どんなに素晴らしいものなのかを感じたこの数か月です。6月から、屋外ステージでのみ鬼剣舞の芸能公演が復活しました。
 「待ってました！」とばかりに大勢の鬼剣舞ファンが訪れ、
 えきびょうたいさん 「疫病退散」を願う力強い踊りを楽しんでいました。

鬼の館令和2年度上半期をふりかえって

企画展

10月11日（日）まで、企画展「もののけ図鑑2020～川の河童、山の天狗～」を開催しています。企画展では、河童と天狗を特集し、もののけの姿形や特徴、正体などを錦絵や剥製などを通して紹介しています。その中でも、河童のコーナーでは、染黒寺（北上市）が所蔵する「河童の手形」とその関連資料を展示しました。お寺によると、この資料は、今から約200年位前、人間に悪事を働いていた河童がお寺で和尚に見つかったとき、二度と悪事を働かない約束の証として書かせたものです。来館者は、展示資料からもののけの存在を実感し、「怖いけど、もののけに会ってみたい！」という声がありました。



河童と天狗のお面がずらり！

夏季鬼っこわんぱく講座 鬼剣舞体験

コロナ禍の夏、様々なことが制限され、中止されている事業が多い中、どのような感染防止対策を講じれば実施が可能となるのか検討を重ねました。結果、募集人数を例年の半数に縮小し、発表会を芸能公演と別日に行うこと、マスク着用や手指の洗浄消毒の徹底を図ることなどを実行することとし、開催にこぎつけました。8人の鬼剣舞大好きキッズは、全日程一人も休むことなく参加し、発表会当日を迎えました。観客は受講者の家族と当日の来館者のみでしたが、子どもたちの顔はやり切った満足感があふれ笑顔がいっぱいでした。



扇をしっかりと持って！
こうだよ。



マスクはちょっと苦しいけど、がんばるよ！

芸能公演

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月から開催を中止していた定期公演でしたが、感染防止対策をとりつつ、6月28日から公演を再開しました。公演では、黒岩鬼剣舞保存会の皆さんが、気迫あふれる鬼剣舞の踊りを7演目行いました。演目「三人加護」では、三人の踊り手が刀や扇などを使った勇壮な踊りを披露しました。公演当日は、首を長くして公演再開を待ちわびていた多くの芸能ファンが足を運びました。公演終了後、保存会や鑑賞者の皆さんの表情を見ると、喜びと興奮に満ちたものでした。公演再開は、民俗芸能が人々に与える情熱を実感したひと時でした。



演目
「三人加護」
黒岩鬼剣舞
保存会

ギャラリー鬼の館

5月7日（木）～6月14日（日）まで、ギャラリー鬼の館「写真6人展」が開催されました。ギャラリー鬼の館は、彫刻や写真、手芸、絵画など様々な創作活動に取り組む市民に企画展示室を開放し、日頃の活動の成果を発表する場として活用を促すものです。今回は市内在住のアマチュアカメラマン6人が、撮りためた写真を展示しました。展示された写真は、岩手県内の豊かな自然風景や、鬼剣舞が躍動する姿などを撮影したものです。観覧者は、写真から伝わる色鮮やかな色彩や迫力のある人物の姿を見て、感激した様子でした。



夏休みワークショップ

今回は、初めての企画「親子で鬼の絵皿をつくろう」と、「疫病退散！妖怪アマビエ壁飾りづくり」、そして定番の「鬼剣舞和紙お面づくり」を実施しました。大好きな鬼剣舞のお面を描いて絵皿を作るという取り組みは、お子さまだけでなく大人の方も夢中になって楽しく制作していました。アマビエ壁飾りは、細かい部分に苦心しながらも、それぞれが大満足の作品になったようです。完成作品の展示会も大好評でした。



今年の夏は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、あちこちの企画が取りやめになっていた中、鬼の館では様々な対策を講じ、募集人数を少なくして開催いたしました。おかげ様で、全てのワークショップが無事終了できたことは幸甚に存じます。暑い中、マスク着用で制作した子どもたちに拍手を送り、ご協力いただいたお家の方々にも深く感謝申し上げます。

逢魔が時ナイトミュージアム



本企画も今年で8回目を迎え、来館者の皆様にご好評いただいております。今回はWALTAさんワルタによるエンターテイナーショーと地元の岩崎鬼剣舞保存会の方々による公演が披露されました。

サングラスをかけ、赤いシャツを着た謎の男、WALTA。さて一体どんなショーが始まるのだろうかと思いが固唾を飲んで見守る中、クラリネットの演奏が始まりました。逢魔が時のムードが漂う館内に響く美しい音色……。ゆったりと時間が流れ、思わず職員もうっとり。ジブリの曲など、全21曲をご披露いただきました。

続いて、地元の岩崎鬼剣舞の公演。格調高い舞である一番庭に始まり、勇壮な一人加護へと続きます。そして余興的な舞である宙返り。宙返りとは、一振の刀から始まって最後には八振もの刀を持って前転する舞ですが、刀が重いので相当な練習をしなければ、なかなかできません。そんな難しい舞ですが、若い踊り手さんが華麗に舞っていただきました。

今年は定員を設けての開催でしたが募集人数を超える申し込みをいただき、大盛況の中、本企画を終えることができました。ご参集くださいました皆様方に感謝申し上げます。

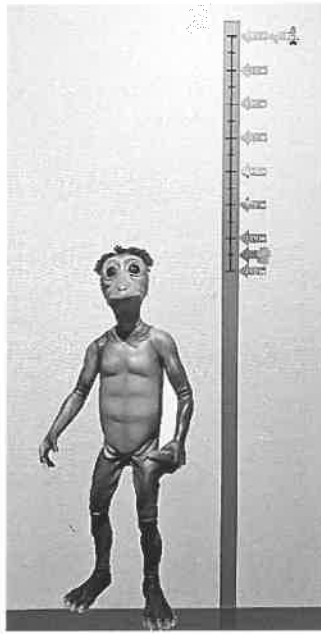


学芸ルームから

さぁきみも！もののけと背比べしてみよう！

企画展「もののけ図鑑 2020～川の河童、山の天狗～」では、展示室の一部に体験コーナーを設けています。ここでは、来館者が主体的に資料を観察し、考察することを目的としています。体験コーナーの一つで、「河童と背比べ！」というものを作りました。

これは、等身大に印刷した河童の写真と背比べをして、河童と一緒に来館の記念撮影ができるというものです。古文書や伝説などによると、河童の身長は、約50cm～100cm位だと言われています。今回は、鬼の館で常設展示されている河童像を写真に撮り、それを基に作成しました。



体験コーナー「河童と背比べ！」

河童の横に「110cm」「120cm」と目盛りをつけることで、河童と自分の身長を数字で比較し、より体感できるように試みしました。来館されたお子さまから「私と河童、同じ位の身長だ！」「もう少しで河童と同じ位になるね」という声がありました。河童は、人間の子どものように交じって楽しく遊んでいたというお話が伝わっています。楽しそうに背比べをするお子さまを見ていると、河童と人間の子どもの仲良く遊んでいる姿を想像することができました。毎度手作り感満載の体験コーナーですが、河童との背比べを通して、もののけの存在を身近に感じ、興味関心を高める機会にできたと実感しています。

おに散歩 — 鬼の死骸を埋めた「鬼石」

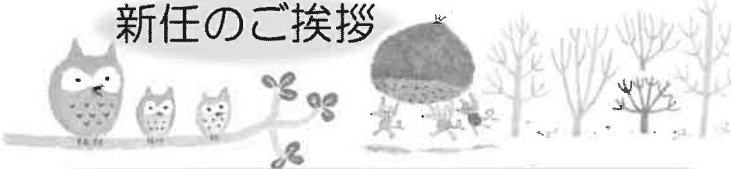
岩手県一関市真柴地区の静かな田園地帯の一角に、「鬼石」とよばれる直径2m位の巨大な石があります。言い伝えによると、昔、朝廷に従わず戦っていた蝦夷の族長・大武丸は、坂上田村麻呂軍に討伐されました。大武丸が捕らえられ、首を刎ねられたとき、その首は飛び上がり、宮城県大崎市鳴子温泉鬼首地区周辺に落ちました。その後、大武丸の亡骸はその土地に埋葬され、その上に鬼石が置かれました。鬼石がある地区は、この伝説を由来として、かつては「鬼死骸村」と呼ばれていました。



現在の鬼石の様子（筆者撮影）

文化15年（1818）の「鬼死骸村絵図」（一関市博物館所蔵）には、旧一関藩領鬼死骸村の道や川、社寺などが名称とともに描かれています。その絵図には、鬼石の所在地が現在と同じ場所に示されています。蝦夷の伝説を巡る際には、足を運んでみてはいかがでしょうか。

新任のご挨拶



主事 老林 優希

鬼の館の事務と会計を担当しています。私は、幼少期より市内の鬼剣舞団体に所属して活動しており、鬼の館には、普段から芸能公演でお邪魔することが多かったのも、とても愛着があります。皆様に鬼剣舞や鬼の魅力を発信していけるよう、努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

事務補助員 浅田 愛子

受付業務を担当しています。今年は新型コロナの感染拡大で外国人のお客様が少ないのが残念です。私は中国出身なので、中国や台湾からのお客様を案内することができます。中国語が話せる人に会うとうれしくなります。よろしくお願いいたします。

専任研究員 大渡 真紀

鬼ZZプレイミュージアムや、夏・冬休みのワークショップなど、教育普及事業を担当しています。皆様の楽しい思い出づくりのお手伝いをしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

令和2年度

下半期事業のお知らせ

□ 企画展 特別展

- 11月7日(土)～2月14日(日)
「地獄の歩き方、極楽への生き方」
- 3月6日(土)～4月4日(日)
写真展「オニの思い出」



□ イベント

- 10月26日(月)～10月31日(土)
ワールドウィーク
10月31日(土)ワークショップ※要申込
- 1月31日(日) 福豆鬼節分会



□ 芸能公演

- 10月4日(日) 谷地鬼剣舞
- 10月25日(日) 鬼柳鬼剣舞
- 11月1日(日) 滑田鬼剣舞
- 12月6日(日) 二子鬼剣舞
- 3月28日(日) 飯豊鬼剣舞少年団
特別出演団体



□ 体験会・講座

- 12月～1月冬休みワークショップ※要申込
- 1月 冬季鬼剣舞体験
鬼っこわんぱく講座(全6回)※要申込
鬼剣舞ちょっぴり見学体験会(全2回)
- 2月～3月 鬼学講座(全2回)※要申込

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業の急な中止や内容変更等がありますことを、ご了承ください。

鬼カフェ No.10

石臼挽き手打ち蕎麦神楽屋

店主 ちば あきふみ
千葉 晃史 さん

鬼の館の隣にある石臼挽き手打ち蕎麦神楽屋は、ジャズが流れ、冬には薪ストーブの火が暖かく迎えてくれる心地よい空間です。店主で蕎麦打ち職人の千葉さんにお話をうかがいました。

千葉さんは、夏油高原いで湯ラインを蕎麦街道として盛り上げようと企画された、蕎麦打ち職人養成事業を経て、さらに研鑽を重ね、2018年11月6日に神楽屋を開店しました。北上産100%の玄そばを毎朝店内でゆっくり石臼製粉。美味しい蕎麦の条件の「挽きたて、打ちたて、茹でたて」三たてにこだわっているそうです。



お勧めは、天盛りきたかみ蕎麦とオリジナル蕎麦スイーツ「かぐらん」

千葉さんの「北上ならではの美味しい蕎麦を楽しんでもらいたい!」というこだわりは野菜にも。天ぷら用の野菜は、市内の契約農家から旬のものを直接仕入れています。そばつゆに使う鰹節や醤油も一切妥協無し。行列ができる所以です。

神楽屋では、千葉さんが打つ黒い粗挽き十割蕎麦と、北上市内唯一の女性蕎麦打ち職人・高橋悟子(さとこ)さんが打つ白い細挽き十割蕎麦を提供しています。鬼の館ご来館の際は、ぜひ神楽屋にも寄ってみてください。いで湯ラインのお隣さんとして鬼の館も応援しています。

※ 神楽屋のFacebookで、営業時間、定休日等を確認できます。



